

坂総合病院医学生だより

坂坂

〈発行〉
坂総合病院
医学生と共に歩む委員会
連絡先・塩釜市錦町16-5
☎ 022-367-9007
 2015年 2月 1日
 No. 67号



医師、そして母として..

女子学生の皆さんへ



坂総合病院 循環器科
 医師 望田 幸

今回女子学生の皆さんへメッセージをとのことで原稿依頼を受けました。まだまだいろいろ勉強中の身ですが、皆さんの今後に少しでもお役に立てたらと思い、ペンをとらせていただきます。

「将来外科になりたいけど、体力が心配・・・」
 「妊娠、出産があるとキャリアアップが難しい」
 女子学生や私が医師になりたてのときの周囲の方からよく聞こえてきた話です。これを読んでもくださっている女子学生の皆さんも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか？
 私は医師になってまだ6年目ですが、学生の頃に思っていたイメージよりも医師は肉体労働です。どんなに体力に自信があっても、女性で

は限界がくることはあります。また、妊娠・出産のために仕事を休まなければならない時期もあり、それがキャリアの中断になってしまうと気にしている人も多いようです。

そういう私も今年の3月に妊娠がわかり、11月に出産予定です。この文章を書いているのは産休に入る直前です。子供を授かったことはとても嬉しかったのですが、複雑な気持ちになったのも事実です。私は循環器科に所属していますが、妊娠が分かる前までは勉強・経験を積むために緊急患者さんの対応を多くしたり、カテーテルの手技を勉強したりと毎日とても忙しく働いていました。妊娠したことがわかると、やはり今までよりは仕事をセーブしないといけま

せん。他の先生方が忙しく働いているのを見ると、申し訳ない気持ちになったり、今後休むにあたって復帰ができるか、どのように仕事をしていくかなどを真剣に考えるようになりました。一人では解決できずに色々な方に相談もしました。

周囲の支え

どの方に相談しても、妊娠を喜んでいただけたこととその後の仕事については、心配しないでいいことを言われました。その方々の言葉に心がほっこりと温かくなり、安心したのを覚えています。また、産休のことを外来で患者さんに伝えると、どの方からも同じような温かい言葉をかけていただきました。今は皆さんの一言一言を思い出しながら、これからの出産やその後も仕事を続けていきたいと考えています。

もし、現在同じようなことで悩んでいる女子学生さんがいたら、一人で悩まずに、周りの色々な人に自分の考えを話してみるとよいと思います。一生懸命頑張っている皆さんを周囲の人は見ていて、きっと力になってもらえるはずですよ。

最近は色々な働き方があり、子供がいる女性医師も少しずつ働きやすくなっているようです。仕事または家庭のどちらかを諦めるのではなく、両方で経験を積むことに是非トライしてみてください。

かくいう私も、これから頑張らなければいけないわけで、どんな子育てができるか、どんな仕事ができるか、今から怖い反面楽しみにしています。

今後、ここでまた皆さんにご報告できればいいなあと思います。



研修医の生活・医師になって感じたこと



坂総合病院 研修医 佐藤 麻理

医学生のみなさん、こんにちは。坂総合病院で研修医1年目の佐藤麻理です。2014年に福島県立医科大学を卒業し、研修医として働いて10ヶ月が経ちました。研修は呼吸器内科、循環器内科、外科をそれぞれ3ヶ月間研修して2月から小児科研修が始まる所です。今までの研修について振り返ってみようと思います。

坂病院では研修医1年目から担当医として、患者さんの治療に携わります。研修医ではあるけれど、患者さんやその御家族の前では医師であり、責任感を持って仕事をしなければいけません。もちろん自分一人では治療や検査など何をしたらいいのか始めは分からないことだらけなので、診断するまでどのように問診・検査を

進めればいいのか、薬はいつ・何を・どれくらいの期間が必要なのか、退院するまで必要な環境調節はないか…など上級医の先生に相談し、教えていただきながら、一緒に診療を行います。入院患者さん以外には夜間当直(月3-4回)で急患の方を診たり、救急当番(週1回の午前か午後)で日中の救急車を担当したり、通院が困難な方への往診(月2回)も行っています。診断・治療を急いで行わなければいけない場合や、数ヶ月単位の経過をみて対応しなければいけない場合など様々です。

また、忙しい日々ではありますが、体力面・精神面の自己管理も大切であり、例えば、坂病院ではPHSがフリーな日が年に7日間保障されているため、ローテーションの変わり目などに少

し羽を伸ばして旅行なども楽しむこともできます。



最後に、医師として働き始めて一番に感じたことは、医師だけでは患者さんを診ることはできないということです。看護師、薬剤師、検査技師、リハビリ、MSW……という他職種の方と連携して一人の患者さんの治療ができます。研修して10ヶ月は経ちますが、まだまだ分からないことも多く、たくさんの人たちに支えていただきながら研修出来ることに感謝をし、これからも頑張りたいと思います。

職場紹介：「リハビリテーション室」

地域の皆様に頼りにされるリハチームを目指して

リハビリテーション室 横山 雅則

坂総合病院のリハビリテーション室は、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚の3部門で構成されており、理学療法士36名、作業療法士31名、言語聴覚士11名、総勢78名が在籍しています。リハビリテーションとは、身体機能や動作能力、体力・筋力が低下し日常生活に支障をきたす方に対し、身体的な障害と生活環境・社会復帰などの問題に多職種がチームとなり解決することです。

坂総合病院のリハビリテーションは、1人の患者様に対し、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、義肢装具士、メディカルソーシャルワーカー、ケアマネージャーなどの多職種が関わり、今後の方針や治療内容を検討しています。主な対象は、疾患・分野・年齢を問わず、身体機能や体力が低下し日常生活を送ることが困難になった方・障害が予測される方が主となります。

急性期～終末期・地域生活期、また入院・外来リハビリ、介護保険分野(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)での支援を行っています。地域の医療機関や福祉施設と連携し、地域に根ざし多様化するニーズに応えられるよう、地域リハビリテーションの担い手としての活動を広げています。現在チーム制を導入しており、様々な治療内容にあわせ、栄養、回復期、ボトックス治療、心臓リハビリテーション、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、自動車運転支援のチームがあり、様々な患者様に質の高いリハビリテーションが展開できるよう取り組んでいます。私たちは、障害があっても患者・家族が幸せに過ごしていけるように粘り強く寄り添い続けるリハビリテーションを目指しています。





↑サーフィンを楽しむ横山さん

リハビリテーションスタッフは、20代、30代が多く、仕事以外でも活動的です。スポーツ活動（フットサル、サーフィン、筋トレやマラソン）や登山、飲み会などは、定期的で開催されています。Drを含めスタッフ間の付き合いは仕事以外の場でも多いため、リハビリテーション室は協和的な雰囲気です。坂総合病院のリハビリテーションに興味を持っていただければ幸いです。

民医連の医療と研修を考える医学生のつどい

毎年恒例の宮城冬のつどいが『医学生ウィンターミーティング』と名称を変え、12月27～28日に松島の大観荘を会場に開催されました。

この企画は、①マッチングした6年生の国試合格の激励、②奨学生同士の交流、③宮城民医連や坂病院を知ってもらうことを目的に毎年開催しています。

医学生は1年生3名、2年生3名、3年生1名、4年生5名、5年生8名、6年生8名の計28名が参加しました。職員は医師18名、コメディカル20名、医学生担当者7名が参加し、総数73名で例年以上に多くの皆さんが日本三景松島に集結しました。

学習企画では『臨床倫理の4分割法を用いたケースカンファレンス』を行いました。この学習企画は①医療はチームで行うことを知る、②自分の目指す医師像を模索することを目的としました。1班9名ずつで学生と医師、コメディカルがそれぞれ複数入るようグループを作り、症例についてディスカッションをすすめていきました。6年生にはチューターをお願いし、チームをまとめるリーダー（＝医師）体験をしてもらいました。参加学生からは「疑問に思ったことを言い合い、分からないことは専門の職種の方に相談できて有意義だった。」「自分では思

いつかない意見が聞けた。実際の現場を知ることができた。」という感想が聞かれ、大学では学べない貴重な経験をすることができたのではないのでしょうか！

交流会では、研修医や指導医そして他職種のみなさんから、臨床研修や病院について、医師の身の上話を聞いたり、学生間では大学生活やプライベートな話など、楽しく飲みながら語りあって互いを知り、交流を深めました。

ぜひ坂病院へ、病院見学・実習に来てみませんか？そして、『ウィンターミーティング』に参加して他大学の学生や医師、コメディカルと将来目指す医師像を模索してみませんか？

